Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-04-04

巻頭言：年報刊行にあたって

矢野, 吉治

(Citation)
海事博物館研究年報,40

(Issue Date)
2012

(Resource Type)
other

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005587

巻頭言

年報刊行にあたって

海事博物館　館長　矢　野　吉　治

７月13日開幕の海事博物館企画展2012にあわせて、平成24年７月１日に内田 誠前館長から海事博物館長を引き継ぎました。海事科学研究科の海技教育センター長と附属練習船深江丸の船長を兼務しておりますことから博物館の運営や企画に思うように専念することができず、博物館顧問と専門員の先生方や神戸商船大学の卒業生で構成する特別専門員の皆様、それから日本船舶海洋工学会関西支部の造船資料保存グループの皆様には博物館の運営にあたり場面ごとに多大なるご尽力を賜りました。このような中、神戸大学事務局、海事科学研究科長をはじめとする研究科事務局、海事科学振興財団、海事科学部同窓会（海神会）、海洋会、それから日本財団、海事関連企業や団体・個人の他、関係の皆様のご声援とご支援の下、神戸大学唯一の博物館として今日に至っています。関係各位のご理解、誠意と熱意、ご厚志に心から感謝いたしますとともに御礼申し上げます。

さて、海事博物館では日本財団支援の下、第８回海事博物館企画展「船の推力発展史 ―人力・風力から未来へ―」を開催、また、秋季には海事博物館セミナーを５回シリーズで開講し、多数の来館・来聴者をお迎えすることができました。企画展の特別展示にあたりましては、造船、舶用機関・機器メーカー、船会社や有志から多数の展示物を借用あるいはご寄贈いただき、企画展も回を重ねるごとに内容がより充実しつつあります。さらに、今回初の試みですが、「閉ざされた島・開かれた海 ―鎖国のなかの日本―」をテーマに、西南学院大学博物館との共同企画展を期間限定で催すことができ、大学博物館として連携の第一歩を踏み出すことができました。また、歴史的資料等保有施設としての指定申請も進行中で、新年度初頭には内閣府から指定される見込みとなり、海事博物館の存在意義とその重要性が増しつつあります。

海事博物館のトピックスとしましては、個人・団体からの寄附や寄贈、支援に加え、平成25年２月19日には海洋会から多額の寄附を賜りました。今後、海事博物館関連施設の整備と史料の充実を段階的に図りながら当館の運営に有効に活用し、皆様のご期待に添える、より身近な海事博物館を関係者一丸となって目指す所存です。

この度、皆様のご理解とご協力により、年報の発刊にこぎ着けることができましたことは館長として大きな慶びであります。今後も海事博物館をご利用いただき、皆様に親しみのある博物館として、当館の運営にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。